

第386号
平成30年

1月 25日

すまいるたうん



発行元
東京新聞
南千住東口専売店
TEL5850-3699
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

ひきこもりからの脱出の道標 荒川たびだちの会

「現在、五十四万人の若者がひきこもりの状態と推定されています」

(二〇一六年九月発表 内閣府「若者の生活に関する調査」より)

ひきこもりは、仕事や学校に行かず家族以外の人との交流をほとんどせず、六ヶ月以上自宅にひきこもっている状態のことを言います。近年、特に問題なのは長期化、高齢化でひきこもりの平均期間は約十年間、本人の平均年齢は約三十三歳という調査結果もあります。(KHJ全国ひきこもり実態調査二〇一五年より)長期にわたるひきこもりは社会適応を困難にし、身体的機能の低下を招きます。

また、親が亡くなった後の不安は、本人や家族にとって深刻な悩みとなっています。

NPO法人KHJ全国ひきこもり家族連合会東京支部であるNPO法人 楽の会リーラには、ひきこもりの家族二十世帯が登録されており、ひきこもり当事者は、三十歳〜四十歳が半数を占めています。

「もつと草の根的な支援を」

講演会を実施する「荒川たびだちの会」(現「荒川旅だちの会」)が衣替えして新たにスタートします)は、NPO法人楽の会

リーラが協力しています。楽の会リーラの事務局長の市川さんも、ひきこもり当事者の親です。

「ひきこもりは誰のせいでも起らない」

社会構造が複雑に絡みあった現在、ひきこもりになるきっかけもそこからの脱出方法も千差万別です。

「なぜ、うちの子が? 自分の育て方が悪かったのか。」

家族は、自身を責め、子どもに早く社会復帰をしてもらいたい。笑顔になつてもらいたいと焦ります。一番苦しんでいる当事者であると気がつき、気持ちに耳を傾け寄り添うまでには時間がかかったと市川さんは話しておられました。

「当事者や家族に寄り添い、脱出の方向の手助けに」

ひきこり状態の人は、「のんびりしたい」という理由の方はほほいしません。「何かやりたい」でもできない「自信がないために物事を決められない。不安になるという悪循環から抜け出せず、悩み苦しんでいます。

誰でも長期入院後は筋力が衰え、足元がおぼつかなく外の光の眩しさにうろたえます。でも、両手を繋いでくれる人がいれば、後ろから支えてもらえる安心感があれば光の中を歩んでいきます。

私も身内で不登校から脱出するのに、半年近くかかりました。身近で小学校入学直後、いじめに遭い不登校になった子どもの

母親の涙も目にしておりません。市川さんに笑顔で傾聴して頂き、思わず声が詰まりました。

荒川たびだちの会は、繋いでくれる手となり、つまずきそうな心を支えてくれます。苦しんでいる当事者、家族は、自分たち以外に沢山いることを知ることによって孤立感がなくなり、楽になります。外部アドバイザーやカウンセラー、当事者のサポーターが相談に乗ってくれ、その方にあつた支援の手を差し伸べてくれます。

講演会にどうぞ、ご参加ください。

荒川たびだちの会 講演会

日時：平成30年2月10日(土) 開始：13時30分

会場：ムーブ町屋ミニギャラリー

定員：40名 参加費500円/1名(当事者：無料)

対象：ひきこもりの家族、当事者、関係者、一般

第1部13時30分~14時30分

「ひきこもりの当事者・家族の思いについて」

第2部 14時40分~16時30分

特別講演「ひきこもりの理解と対応、そして、将来を考える」

問合せ・申込みNPO法人楽の会リーラ

TEL/FAX03-5944-5730(水、金、日13時~17時受付)

mail: info@rakuukai.com

主催：荒川たびだちの会 協力：NPO法人楽の会リーラ